

# 多くの男性と交流し、 対談した寂聴さんを見て

草の実      アイ

私は、寂聴さんには、文筆家以外にも色々な顔、色々な側面があるということに感心させられている人間です。

今回取り上げるのは、彼女が色々な方と交流されたことが書いてある『奇縁まんだら』シリーズ全4巻と、色々なジャンルの方（男女）と対談された各種対談集です。

まず『まんだら』。これは百数十人程の各界で活躍された人との交流のありようとその方の活躍の内容の紹介、代表著作の紹介、がコンパクトにまとめられているものです。

これを読んでまず思った事は、いつものように寂聴さんの行動力とまめに人付き合いをなさる姿には“感心”の一言しかない、という事でした。

取り上げている方の中には、私がよく知らなかった方も

いまして、その方々に興味を持ち紹介されてあった書などを読んでみたら、これまた例外なく面白いのです。私基準になってしまうかもしれませんが、寂聴さんにはプロデューサー能力がありなのではないかと感じたものです。人の持つている良さを見抜き、またそれを他の人に伝える事も出来る、という事がここで言うプロデューサー能力という事です。スゴイ。ただ自分の文を書いている他の文筆家という人とは違うのですね。

対談集の方からも同様な事は感じられましたが、今回はその中から見つけた“男性との交流”にテーマを定めて書いてみたいと思います。

彼女が比叡山で宗教家になるための修行をしていた時の

エピソード。若い修行僧の中に年配の寂聴さんが混じって数か月暮らしたそうですが、その際夜若い僧の着衣のほころびなどを毎日消灯時間後にも乏しい明りの中で繕っていたとの事です。夜になると彼女の寢室の外の廊下にいつの間にか着衣が積まれてあつて、彼女は毎日どうしてほころびができるのか？不思議に思っていたのですが、どうやらわざと破ってくるらしいと気付いてきました。そうか、年若い男性が母や姉などに甘えたい心理なのではないか、とわかったそうですが、その後も黙って繕ってあげていたとの事。

やはりここでも見えてくるのはこの行動力のすごさ、またどんな人にもまめに親切にしてあげる方だという事。この御性格が皆に好かれたのでしょね、と思うわけであります。並の人（含私）には真似できません。

岩手県のお寺の住職をやっていた時代のエピソード。ある男性が、寂聴さんに会わせようと人につれてこられて岩手で寂聴さんと対面しました。この男性は難病にかかつて、治療も困難と言われていました。が同居家族（親など）が冷たく、離れて暮らしてくれ、と言われ大変精神的に参っていました。寂聴さんは、〃まずお食事をどうぞ〃と言つて食事を出したそうです。その時この男性の眼からは涙。

〃家族にこんなに暖かく接してもらつたことはない〃と感激したそうです。このエピソードからも、宗教家寂聴さんの人に親かな姿が見えます。

さて次に、寂聴さんのものを含め男性との対談一般を考えます。また対談集の中身ではなく、〃対談〃そのものの目を向けます。何故ここが気になるのかというと、日頃世の中を見回すにつけ男性と会話している女性とは、寂聴さんや一部のハイレベルの方々だけであつて、一般庶民の女性は日頃男性と会話しているのかな？一般庶民はもちろん日常生活の衣食住の事などは普通に会話しているでしょうが、日常生活外の例えばTVを見ていて事件や社会の出来事や政治家の発言や、について思った事、また書や映画などの感想、などを男女で述べあったり、同感したり反論したりしているのかな？とこの寂聴さんレベルと庶民の差に目が行ってしまうからです。

私は、日本において男性だけ女性だけで話す、という姿があまりにも多すぎないか？と常々思っている人間です。距離的には近いのにお互いの感じている事、考えている事が見えない男女、それはいい事ではないでしょう、なのではないか？ひいては皆に知られるようになった、日本の女

性の地位ランキングの低さにつながるのではないかと？

ここで考えが飛躍したようですが、この短文では十分に語れないので途中を省き、会話という行為は他との交流によって自分（男女共）の自身を高める重要な要素の一つと考える、とまとめてしまっています。そして会話とは言っても、一般庶民の多くやっている女だけ日本人だけの会話ではこの力は付かないのではないかと考えます。残念ながら、今の日本でのそれは女だけに通じる狭い世界、決して今の自分を高める事にはつながらない会話なのではないかと、思ってしまうのです。

そこで寂聴さんの対談集です。これを男性との会話の仕方という観点で読むと寂聴さんの話題の広さ、共感力、自分の主張をしている姿（反論含む）……が見え、私は「寂聴さんに学び、男女の対話をせよ」と提言したくなったのです。

誰とでもいいから、女性は周りの男性と会話しよう、男性は女性と対話しよう。

最後に対談集から話題転換、『寂聴』VOL2の感想を述べさせてもらいます。取り上げる方の順は、生年順です。

「竹内紀子さん」寂聴さんの文筆活動についてすべて理解されているようで私は勝手に竹内さんを「寂聴博士」と呼んでいます。「寂聴さんについては竹内さんに聞け」ですね。

「崔順愛さん」韓国の文芸事情をおわかりの方。韓国で読まれている寂聴さん、韓国の人の感想が日本の人とう違うか教えていただけると嬉しいです。

「鷺尾龍華さん」石山寺の女性初の座主さん。2023年末、NHKTVでお顔を拝見した時は文章を見ていたのて全くの他人とは思えませんでした。寂聴さん以外で、尼さんの文章を見たのは鷺尾さんが初めてで、新鮮でした。

もし石山寺に行ったら、お会いしてお話もさせていたでけるのかな、などと思いました。座主鷺尾さんが私以外にも人々のお話を聞いてくれる人になってくれたら喜ぶ人も多いであろうに、などと勝手な事を考えてしまいました。

「瀬尾まなほさん」寂聴さんに最も近くで接しておられた秘書さんの、寂聴さんが亡くなられてからの哀しみが、痛いほど伝わりました。寂聴さんが亡くなられて誰よりも一番大きな喪失感を持たれた方のように思いました。

以上、草の実アイ（2024・4 2作目を出版）でした。